

図書館がすすめる 夏休みの本（5・6年向き）

『大坂オナラ草紙』
 谷口 雅美／著 講談社（913タ・オ）
 平太は絵が得意だけれど、描いた絵で人を傷つけてしまったことがある。そんなある日、おじいちゃんの古い冊子の整理を手伝っている時に、平太は江戸時代へタイムスリップしてしまう。現代にもどる方法は…？



『歯みがきつくて億万長者』
 ジーン・メリル／作 偕成社（933メ・ハ）
 12歳の男の子が手作りの歯みがきを作って億万長者になった物語。会社や経済のしくみも楽しくわかるよ！



『ぼくの帰る場所』
 S.E.デュラント／作 鈴木出版（933デ・ボ）
 AJは足が速い11歳の少年。AJの両親には学習障害があって、お金や書類の管理ができない。おじいちゃんが、かわりにしてくれていたけれど、突然、亡くなってしまった。AJはいろいろなことを一人でしようとするのだが…。



『砂鉄とじしゃくのなぞ』
 板倉 聖宣／著 仮説社（459サ）
 砂の中に磁石を入れて、砂鉄を集めたことはあるかな？でも、砂鉄ってなんだろう？細かい鉄のなかな？作者は砂鉄のことを調べていくうちに、磁石や地球のこともいろいろわかって、この本を書いたそうです。どんなことがわかったのかな？



『千ギータ！』
 蒔田 浩平／作 ポプラ社（913マ・チ）
 千木田寛仁は地味で卓球が大好きな5年生。クラスでするレクリエーションを決める時に、いつもスポーツ万能でケンカが強い榎元が推すサッカーやバスケットになることにあきらめを感じていたけれど、卓球が選ばれるようにがんばることにした！



『フィボナッチ 自然の中にかくれた数を見つけた人』
 ジョセフ・ダグニース／文 ジョン・オブライエン／絵 さ・え・ら書房（Eオ・フ）
 子どものころから、数のことばかり考えていたレオナルドは、「のうなし」と呼ばれてからかわれていました。しかし、大人になってから自然の中にある数の法則を発見します。



『食品ロスの大研究』
 井出 留美／監修 PHP研究所（611シ）
 食品ロスは、「まだ食べられるのに捨てられる食べ物」のこと。日本で1年間に出る食品ロスはどれくらいかな？食品ロスを減らすためには、どうすればいいのかな？



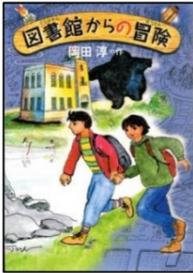
『せんそうしない』
 たにかわ しゅんたろう／ぶん えがしら みちこ／え 講談社（Eセ）
 地球にいる生きものの中で、戦争を始めるのは、人間だけ…。戦争と平和について問いかける詩の本。



『神隠しの教室』
 山本 悦子／作 童心社（913ヤ・カ）
 加奈たち5人は、ある日学校で、自分たち以外の人がいなくなっていることに気がつく。さっきまでは、どの教室にも生徒がいたのに…。加奈たちは、なぜか、別の世界の学校に迷い込んでしまっていた。



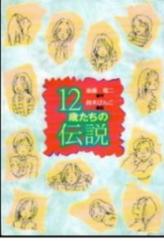
『図書館からの冒険』
 岡田 淳／作 偕成社（913オ・ト）
 渉は、小学校の図書館から「シバナサキ島」という、あれはてた島へワープしてしまう。そこで出会った人たちと一緒に、島をもとの美しい姿にもどすために龍を探しに行くことにするが…。



『ガリガリ君ができるまで』
 岩貞 るみこ／文 講談社（588ガ）
 アイスの「ガリガリ君」は好き？ガリガリ君には、いろいろな味があるけれど、どんなふうを決めたり、作っているんだろう？この本を読むと、ガリガリ君を作っている人たちのことがよくわかるよ！



『12歳たちの伝説1～5』
 後藤 竜二／作 新日本出版社（913ゴ・シ）
 5年生の時に「パニック学級」と呼ばれて担任が次々に変わっていたクラスに、6年生になって新しい先生がやってきた。今度の先生はちょっと変わっていて…。12歳の子たちが、新しい先生と友達との関わりの中で変わっていく姿を描いたシリーズです。



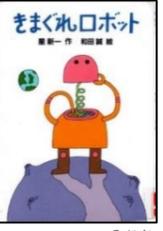
『影との戦い ゲド戦記1』
 ルーグウィン／作 岩波書店（933ル・ゲ）
 不思議な力を持っていたゲドは、魔法を学ぶためにローク学院に入った。みんなから優秀だと認められるようになったゲドは、得意になってしまい、禁じられている呪文を使って恐ろしい「影」を呼び出してしま…。



『「お手伝いしましょうか？」うれしかった、そのひとこと』
 高橋 うらら／文 講談社（369オ）
 目や耳の不自由な人、車いすの人、赤ちゃんを連れた人、外国人旅行者、お年寄りなどを手助けする方法をわかりやすく教えてくれる本。どんなふうに声をかけて手伝ったら、うれしいのかな？



『きまぐれロボット』
 星 新一／作 KADOKAWA、理論社（913ホ・キ）
 料理、かだづけ、そうじ、楽しい話…。なんでもしてくれる優秀なロボットを買ったエヌ氏は、ロボットを連れて島の別荘にかけました。でも、だんだん困ったことが起きて…。他にも、短くて面白いお話がたくさん入っている本です。



『トムは真夜中の庭で』
 フィリパ・ピアス／作 岩波書店（933ピ・ト）
 弟が病気になったので、おじさんの家に預けられたトムは、真夜中に大時計が13回鳴った音を聞く。トムが大時計の時間を確かめに行くと、外に、昼間はなかった広い庭園が広がっていた。トムはそれから毎晩、その庭園に行くようになる。

